

世界中医薬学会連合会 アジア太平洋地域中医薬サミット・日本中医薬研究会第15回全国大会 開催



国内の医師や研究者、漢方薬局や鍼灸院などの専門家、さらに海外からの来場者で満員の会場

先端の研究成果を発信 中医学が拓く 「未病」対策の未来



国医大師 天津市中医薬研究会 教授 張大寧氏
イスクラ産業株式会社 代表取締役社長 吉田由美子氏
公益財団法人日中医学協会 副会長 安達勇氏
世界中医薬学会連合会 副会主席 李振吉氏
日本中医薬研究会 会長 乾康彦氏

日本中医薬研究会とは

1987年1月に発足し、2019年4月現在、日本全国約1000店舗の薬局・薬店が加盟。中医学を少子高齢社会に向かう日本で役立てたいと普及啓発に取り組み、生薬製剤の紹介や、生活習慣病の予防啓発、高齢社会への提言、また日中の懸け橋として学術講座、シンポジウム、専門家の学術交流、消費者向けセミナーなども行っている。

広告 企画制作/毎日新聞社営業総本部



写真左から川嶋明氏(東京有明医療大学 教授)、横澤隆子氏(富山大学大学院理工学研究部 研究員)、談勇氏(南京中医薬大学 教授)、陳志清氏(イスクラ産業)

では国庫が破綻に近づくと、医療の質を下げずに医療費を縮小するには、必要以上の理由や、女性特有の症状との関わりについて解説したのは談氏だ。これは中医学の文献でも古くから指摘があり、現在の研究水準でも、血流が排卵や子宮内膜の状態に影響を及ぼしていることを紹介。「月経痛、排卵障害、更年期障害など婦人科の領域全般で、活血化療が応用できま

冒頭、日本中医薬研究会会長の乾康彦氏は「サミットのテーマは『世界をつなぐ中医学』。新しい中医学の風を感じていただく機会になれば」とあいさつ。世界中医薬学会連合会副会主席の李振吉氏は「中医学は伝統医療の宝であり、世界的な注目の的として高まっている」と力強く話し、日中医学協会副会長の安

達勇氏は、祝辞で「日中の医学・医療の交流は両国民の願いと、交流を通じた研究の発展へ期待感を述べた。また日本中医学の普及に取り組んできたイスクラ産業の吉田由美子社長は、各国での知見を共有し、中医学普及の新たな展開が生まれることを期待します」と笑顔を見せた。

「活血化療」の可能性
熱気あふれるサミットも後半。活血化療の意義と臨床応用と題したシンポジウムでは、医師で東京有明医療大学教授の川嶋明氏、中医学で南京中医薬大学教授の談勇氏、富山大学大学院理工学研究部研究員の横澤隆子氏が登壇。イスクラ産業代表取締役社長で中医学講師の陳志清氏がコーディネーターを務めた。中医学では、「血の巡りが悪い状態を『瘀血』といい、疾患や、検査しても原因が分からない体の不調と表裏一体と捉えている。そして活血化療は、この瘀血を解消し、血行を良くすることを指す。医師を良くすることを指す。医師

「補腎活血法」で未病対策
世界の専門家が集結
同サミットは、世界中医薬学会連合会(北京)と、日本中医薬研究会が合同で主催。中医学のトップクラスの専門家が一堂に会するとあって、会場には日中韓をはじめ15の国と地域から、医師、薬剤師、鍼灸師、研究者ら約700名が集まった。

中国が格別の漢方医に授与する「国医大師」の称号を持つ、天津市中医薬研究院教授の張大寧氏による基調講演は、「新時代における中医学の役割」と題し、中医学の過去・現在、そして未来を展望。日本漢方とルーツを同じくする中医学は長い歴史の中で予防、治療、リハビリ、養生などの理論を体系化しており、「中医学独自の臨床研究を重ねてきました。西洋医学にはない強みがあるのです」と力説した。中でも1980年代に提唱された「補腎活血法」に着目。中医学では「腎」は生命力や自然治癒力を生む「生命の源」と考える。その腎の働きを補い、血行を改善するために深められてきた方法論だ。「補腎活血法の特徴は、症状が出た後の治療と、出る前

「活血化療」の可能性
熱気あふれるサミットも後半。活血化療の意義と臨床応用と題したシンポジウムでは、医師で東京有明医療大学教授の川嶋明氏、中医学で南京中医薬大学教授の談勇氏、富山大学大学院理工学研究部研究員の横澤隆子氏が登壇。イスクラ産業代表取締役社長で中医学講師の陳志清氏がコーディネーターを務めた。中医学では、「血の巡りが悪い状態を『瘀血』といい、疾患や、検査しても原因が分からない体の不調と表裏一体と捉えている。そして活血化療は、この瘀血を解消し、血行を良くすることを指す。医師を良くすることを指す。医師

「活血化療」の可能性
熱気あふれるサミットも後半。活血化療の意義と臨床応用と題したシンポジウムでは、医師で東京有明医療大学教授の川嶋明氏、中医学で南京中医薬大学教授の談勇氏、富山大学大学院理工学研究部研究員の横澤隆子氏が登壇。イスクラ産業代表取締役社長で中医学講師の陳志清氏がコーディネーターを務めた。中医学では、「血の巡りが悪い状態を『瘀血』といい、疾患や、検査しても原因が分からない体の不調と表裏一体と捉えている。そして活血化療は、この瘀血を解消し、血行を良くすることを指す。医師を良くすることを指す。医師

「活血化療」の可能性
熱気あふれるサミットも後半。活血化療の意義と臨床応用と題したシンポジウムでは、医師で東京有明医療大学教授の川嶋明氏、中医学で南京中医薬大学教授の談勇氏、富山大学大学院理工学研究部研究員の横澤隆子氏が登壇。イスクラ産業代表取締役社長で中医学講師の陳志清氏がコーディネーターを務めた。中医学では、「血の巡りが悪い状態を『瘀血』といい、疾患や、検査しても原因が分からない体の不調と表裏一体と捉えている。そして活血化療は、この瘀血を解消し、血行を良くすることを指す。医師を良くすることを指す。医師

「活血化療」の可能性
熱気あふれるサミットも後半。活血化療の意義と臨床応用と題したシンポジウムでは、医師で東京有明医療大学教授の川嶋明氏、中医学で南京中医薬大学教授の談勇氏、富山大学大学院理工学研究部研究員の横澤隆子氏が登壇。イスクラ産業代表取締役社長で中医学講師の陳志清氏がコーディネーターを務めた。中医学では、「血の巡りが悪い状態を『瘀血』といい、疾患や、検査しても原因が分からない体の不調と表裏一体と捉えている。そして活血化療は、この瘀血を解消し、血行を良くすることを指す。医師を良くすることを指す。医師

超高齢社会を迎え、健康寿命を伸ばしより長く元気に生活することが目指される中、4月7日8日、日本で初となる「アジア太平洋地域中医薬サミット」が「日本中医薬研究会第15回全国大会」を兼ねて東京都内で開催された。中国の伝統医療である中医学の専門家、世界各地から来場。今後の中医学の役割や西洋医学と両立させる研究成果など最新の知見が発信された。

陳達燦氏による「アトピー性皮膚炎の中医学診療及び研究」の講演では、治療現場での取り組みが豊富な症例を交えて解説された。



広東省中医薬院 教授 陳達燦氏
山東中医薬大学 教授 連方氏

分科会、学術交流会も盛況
同時開催の生殖医学、皮膚科、鍼灸分野の分科会、学術交流会では40を超える発表が行われ、活発な議論の場となった。

医療は未病の時代へ

元気で長生き3つのポイント

男性は40歳頃から女性は35歳頃から老化がはじまると考えます。メタボもフレイルも「未病先防」が大切です。

59年前、ポリオ(小児麻痺)の流行は凄まじいものでした。1960年、日本全国をポリオの大流行が襲いました。連日、痛ましいニュースが報道される中、全国の母親達は、「ソ連には飲むだけでポリオを予防できる生ワクチンがあり、これを輸入できれば未曾有の危機を克服できる」として、政府に生ワクチンの緊急輸入を求める運動を繰り広げました。母親たちの願いは世論の高まりに繋がり、ついに生ワクチンの輸入が許可されたのです。当社がソ連から輸入したこの生ワクチンの投与により、ポリオの流行は下火になりました。これが私達の活動の原点です。

現在は、数千年の歴史を持つ中医学理論に基づき、高品質の各種中成薬(漢方製剤・生薬製剤)を開発、製造し、パンダマークでおなじみの日本中医薬研究会会員店(約1000店)の薬局・薬店を通じ、全国で販売しています。中医学の知恵を皆様の健康のために役立てていただくことを願っております。

イスクラ産業株式会社 <https://www.iskra.co.jp/>



経験と信頼を培って32年
日本中医薬研究会 <https://chuiyaku.or.jp/>

イスクラ産業の製品は、症状・体質などをご相談のうえご購入ください。健康づくりのご相談はパンダマークの日本中医薬研究会の薬局・薬店で。